

公益財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会

公益財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会

I 法人の概要（平成 27 年 4 月 1 日現在）

1 所在地

北九州市小倉北区浅野三丁目 8 番 1 号

2 設立年月日

昭和 51 年 3 月 25 日

3 代表者

理事長 利島 康司

4 基本財産

2,474,957 千円

5 北九州市の出捐金

1,750,000 千円（出捐の割合 70.7%）

6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	10 人	0 人	1 人	9 人
常 勤	1 人	0 人	1 人	0 人
非常勤	9 人	0 人	0 人	9 人
職 員	44 人	7 人	0 人	37 人

7 市からのミッション

内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興に資するとともに、本市におけるコンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資することにより、本市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献する。

II 平成 26 年度事業実績

1 総 論

西日本屈指の MICE 開催拠点＝小倉駅新幹線口コンベンションゾーン＝を一体的に運営し、積極的に MICE を推進することにより、産業振興・国際化の推進・にぎわいづくりで北九州市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あるまちづくりに貢献するため、以下の方針で事業運営に取り組んだ。

- ・ MICE 開催の質を高め、産業振興・国際化を推進し、地域の発展に貢献する。
- ・ MICE 開催の多様性を高め、にぎわい・活力づくりを展開、市内外からの集客力を向上し、地域への経済波及効果を増進する。
- ・施設の付加価値を高め、利用者ニーズに合致した利用環境・サービスを提供し、目的達成の基盤を整える。

【概況】

平成 26 年度は、25 年度に行われた市制 50 周年記念事業などの一時的な開催効果が無くなること
が心配されたが、夏季・冬季のにぎわいイベントを実施したほか、積極的にコンベンションなどの
誘致・開催および貸館営業などに取り組んだ。これらの取り組みが奏功し、展示場・会議場ともに
稼働率、利用者数で高い実績を確保することができた。

また、収支についてもある程度の黒字を確保し、顧客サービス向上のための施設改修や、老朽化
した備品類の更新等についても取り組むことができた。

しかしながら、イベント・コンベンション等の首都圏等への一極集中の進展、さらに周辺他都市
では、新たに同様な施設の整備計画が多数同時で並行して進行するなど、中・長期的には楽観でき
ない状況にある。

したがって、引き続き誘致・営業の強化やサービス向上および経営の合理化を図り、これまで以
上に自主自立の経営の確立を進めていかなければならない。

【指定管理計画の達成状況について】

平成 26 年度は、概ね目標を達成した。施設別に見ると、展示場新館（国際展示場）が、利用件数
159 件・稼働率 81.7%（目標：140 件・72%）、国際会議場が、577 件・91.5%（目標：680 件・88%）
であった。

さらに、施設利用者数については、現行の指定管理期間の初年度で 93 万人と、過去最高を記録し
た。

引き続き、指定管理計画に掲げた目標の達成に向けて、積極的に誘致・営業活動を展開し、新た
な見本市・展示会、イベントの開催実現に向けて総力を挙げて取り組んでいきたい。

【平成 26 年度の取り組み】

① 主催事業への取り組み

西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施
策や方針と連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催した。

② コンベンション誘致の強化

開催助成金制度を有効に活用し、国際・全国規模の学会・大会・展示会等の誘致に積極的
に取り組む、国際コンベンションゾーンの更なる振興を図った。

③ 積極的な営業活動の実施

施設稼働率の向上に向け、より対象エリア・業界を広げた積極的な営業を推進した。併せて、
施設利用者への集客や広報支援等を充実させるなど、さらなるサービスの向上に努めた。ま
た、特に閑散期における利用者増・収入増を目的とした取り組みも行った。

④ 小倉駅新幹線口地区魅力アップイベント開催の検討

同地区の企業・団体などと連携して、当該地区の魅力アップと賑わいづくりにつながるイ
ベントや事業などを一体的に開催することを検討していく。「あるある C i t y」「あさの汐
風公園」「北九州スタジアム」など地域の資源を活用した事業を展開するため、イベントの誘
致や共同開催に向けた取り組みを行った。

⑤ お客様満足度の向上

質の高い貸館サービスの提供や施設の快適な利用環境を確保し、一層のお客様サービスの

向上、安全・安心を目指した施設設備の改善・充実に努めた。

また、展示場の利用者増および収入増を目的に、スポーツ利用料金や他都市施設との相互利用割引料金の設定等を行い、新たな試みを実施した。

⑥ 西日本総合展示場本館の耐震診断

25年度に実施した耐震診断の診断報告を審査機関に提出し、最終診断結果が示されたため、その診断結果に基づいて工事時期や、改修の規模等、具体的な改修工事についての検討を行った。

見本市・展示会事業（公益目的事業）

2 主催・共催事業

- (1) 西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の方針や施策との連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催した。展示会等を取り巻く環境変化に対応するため、平成25年度より事業統廃合を進めると同時に、地域振興策の展示会やイベントの活用、ビジネス取引拡大の場づくりなど事業の再構築を行っている。

◆当協会が主催・共催した主な見本市・展示会 ()内は25年度実績

事業名	開催期日	入場者数	出展社数
西日本インポートフェア 2014	5月2日 ～6日	48,298人 (49,105)	194社・団体 (215)
西日本製造技術イノベーション 2014	6月18日 ～20日	15,203人 (15,769)	46社・団体 (47)
第40回ふくおか産業技術振興展			23社・団体 (28)
第36回西日本陶磁器フェスタ	9月19日 ～23日	49,855人 (56,931)	205社 (195)
エコテクノ 2014	10月8日 ～10日	33,420人 (29,651)	98社・団体 (134)
エコ・ベンチャー・メッセ 2014			36社・団体 (38)
中小企業テクノフェア in 九州 2014			64社・団体 (46)
再生可能エネルギー先端技術展 2014			20,588人 (20,051)
P. P. C. 2014 第16回西日本国際福祉機器展	11月7日 ～9日	26,406人 (20,712)	130社・団体 (108)
合計	9事業 (11事業)	193,770人 (192,219)	909社・団体 (914)

※ 25年度の出展社数の合計は九州・国際テクノフェア 2013 (20社・団体) を含む。

【事業の効果的な推進に向けた主な取り組み】

ア 見本市・展示会の再構築

各展示会の目的や意義と社会・経済情勢などを勘案しながら、常に開催内容を見直しつつ、関心を高める努力を行った。

○ 「西日本製造技術イノベーション」におけるロボット産業振興の取り組み

北九州市が推進する「産業用ロボット導入支援補助金」の紹介や地元中小企業への産業用ロボットの普及促進を目的とした特別展示、セミナーを開催した。

○ 4事業を同時に開催

例年秋季に二期に分けて開催していた「エコテクノ／エコ・ベンチャー・メッセ」、「中小企業テクノフェア」と「再生可能エネルギー先端技術展」を、新館・本館を利用して同時開催し、来場者の増加を図った。

また、「エコテクノ」と「再生可能エネルギー先端技術展」は、一つの展示会として開催することを関係者間で合意し、2015年の一体開催にむけて協議をすすめていく。

○ 「エコテクノ」出展内容の拡大・強化

「先端農業・植物工場推進コーナー」を九州農業成長産業化連携協議会との共催でエコテクノのフェアインフェアとして開催した。

イ 国際化の推進

国内市場が縮小するなか、海外との取引拡大の機会提供に注力した。

○ エコテクノ 2014 国際環境ゾーン

環境を軸とした産業の活性化に寄与することを目的に、エコテクノ 2014 において国際環境ゾーンを展開した。海外企業 6 社、1 団体と海外投資支援機関 2 機関の出展により、商談と情報発信を実施した。

ウ 成果のあがる展示会の構築

主催展示会での販売促進や商談の支援のため、出展社とユーザーとの橋渡しに努め、ビジネスマッチングの精度や確度を高めた。

○ 中小企業テクノフェア in 九州 2014 ビジネスマッチング事業

大手企業OBの技術者で構成する「NPO法人北九州テクノサポート」による、中小企業テクノフェア出展社と地元企業とのビジネスマッチングを促進した。

○ 製造技術マッチングフェア（商談会）の開催

「西日本製造技術マッチングフェア」、「ふくおか産業技術振興展」、「ロボット産業マッチングフェア北九州」の出展社を対象に、マッチングについては福岡県中小企業支援センターの協力を得て開催した。

(2) 主催事業と並行して関連するセミナー、シンポジウムを開催した。(119 テーマ、参加者数：6,532 人)

3 関係団体との連携事業

(1) 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、県、北九州市や大学、関係団体、研究機

関等と連携し、効果的な事業推進を図った。

(2) アジアとの連携・交流

ア アジアの関係団体等への展示会出展誘致活動の充実

エコテクノに韓国大田広域市の福岡通商事務所を通じて韓国の環境系企業5社が出展し、エコテクノへの出展企業や来場企業との商談を実施した。また、韓国BEXCO（釜山国際展示場）の主催する「ENTECH釜山」とのブース交換により韓国企業1社が出展した。

その他、西日本製造技術イノベーション2014においても（公財）福岡県中小企業振興センターを介して韓国大田広域市より12社・団体が出展した。

イ 北九州市アジア低炭素化センターとの連携

エコテクノ会期中、アジア低炭素化センターと協力して、環境技術の輸出促進や国際競争力の強化を図ることを目的に、「タイ環境ビジネスセミナー～エコ・インダストリアルタウン構想への事業参入を目指して～」を実施した。

(3) 新規見本市の開発

ア SAFETEC2015 第1回西日本防災・防犯危機管理展

27年11月19日から21日の開催に向けて、共同主催者である日刊工業新聞と協議を行った。最新の防災、減災、防犯及び危機管理に関する製品・技術・サービスの展示紹介や、北九州市と共催で一般市民の防災意識の啓発を図るコーナーの設置やセミナー等の企画、準備を行った。

イ 九州ヘルスケア産業推進協議会

「製造技術イノベーション2014」において、九州ヘルスケア産業推進協議会と、モノづくりの技術を応用して進められる「医歯工連携・医療機器産業参入」をテーマに、記念セミナーを開催した。

また、「QCサークル活動…今こそ、人間力が求められる」「自動車産業における人財育成の考え方」をテーマに、セミナーを行った。

会議・大会等（公益目的事業）

4 誘致・支援事業

(1) 都市間のMICE誘致競争が年々激化している中、北九州市の活性化に寄与し、多大な経済効果が見込める各種の会議・大会等を誘致するため、積極的、かつ計画的に誘致活動を行った。

北九州市の開催支援制度を活用した誘致活動では、大規模な国際会議や全国規模のスポーツ大会等を多数誘致することができた。

なお、観光庁が作成した「MICE開催による経済波及効果測定モデル」によれば、26年度の当協会の誘致案件のみによる経済波及効果（間接2次波及効果、雇用効果を含む）の推計値は25年度（85億円）を上回る109億97百万円であった。

◆年度別開催件数の推移

(単位：件)

区 分	国際	全国	その他	合計
26 年度	63	103	132	298
25 年度	37	102	89	228
24 年度	55	83	70	208

◆年度別参加者数の推移

(単位：人)

区分	国際	全国	その他	合計
26 年度	49,207	75,054	79,018	203,279
25 年度	20,016	124,997	53,130	198,143
24 年度	31,584	95,654	55,645	182,883

(2) 国際規模をはじめとする学会・大会等の誘致に積極的に取り組んだ結果、過去最高の 298 件の開催となった。

また、これらの誘致活動および開催助成金の効果として、27 年度以降に合計 102 件（27 年 4 月 1 日現在）のコンベンションが予定されている。

◆平成 26 年度開催の主な会議・大会

規模	名 称	開催時期	会 場	規模（国・人数）
国際	International Conference on Advanced Applied Informatics (AAI 2014)	H26 年 8 月	国際会議場	1,280 人 (16 カ国 240 人)
	10th Information Hiding and Multimedia Signal Processing (10th IH-MSP)	H26 年 9 月	国際会議場	616 人 (12 カ国 450 人)
	The 14th Asia Simulation Conference & The 33rd JSST Annual Conference (Asia Sim & JSST 2014)	H26 年 10 月	国際会議場	448 人 (6 カ国 188 人)
	第 27 回日本動物細胞工学会 2014 年度国際大会 (JAAC T2014)	H26 年 11 月	国際会議場	810 人 (11 カ国 70 人)
	第二回 UNISEC 世界大会	H26 年 11 月	九州工業大学	606 人 (33 カ国 387 人)
	Joint 7th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 15th International Symposium on Advanced Intelligent Systems	H26 年 12 月	国際会議場	1,269 人 (17 カ国 261 人)
	第 26 回日本心エコー図学会学術集会	H27 年 3 月	国際会議場 西日本総合展示場	3,000 人 (4 カ国 30 人)

全国	日本家政学会第 66 回全国大会	H26 年 5 月	国際会議場	1,773 人
	第 49 回地盤工学会全国大会	H26 年 7 月	国際会議場 西日本総合展示場	5,397 人
	第 47 回全日本シニア体操競技選手権大会	H26 年 9 月	市立総合体育館	2,500 人
	平成 26 年度全国ソフトバレーレディース&メンズ 交流大会	H26 年 9 月	市立総合体育館	2,196 人
	日本鑄造工学会第 165 回全国講演大会	H26 年 10 月	国際会議場 西日本総合展示場	2,576 人
	地方創生全国協議会 第 1 回全国大会	H26 年 12 月	西日本総合展示場	2,980 人
九州	第 51 回九州外科学会・九州小児科外科学会・九州内分泌外科学会	H26 年 5 月	国際会議場	1,015 人
	第 5 回西日本地区男女ペアグラウンド・ゴルフ大会	H26 年 5 月	グリーンパーク	2,096 人
	第 51 回化学関連支部合同九州大会	H26 年 6 月	国際会議場	1,000 人
	第 32 回九州マーチングコンテスト 第 32 回九州小学校バンドフェスティバル	H26 年 10 月	市立総合体育館	12,824 人
	第 9 回九州臨床工学会	H26 年 10 月	国際会議場	758 人
	第 9 回九州放射線医療技術学術大会	H26 年 11 月	国際会議場	1,600 人

- (3) 主催・共催事業については、北九州国際会議場の大型ハイビジョンを活用した映画の上映や俳句等の文化事業や異業種交流を目的とした事業や小倉駅新幹線口にぎわいづくり事業など、子どもから年長者まで幅広い年齢層を対象にした特色のある各種事業を実施した。

◆イベント・大会等の企画、開催（主催・共催）

※（ ）内は 25 年度実績

事業名	開催期日	入場者数
小倉まちづくりミーティング泡盛ナイト in こくら (旧コンベンションサロン「北九州泡盛会」)	H26 年 6 月 H26 年 11 月	延べ 440 人 (延べ 430 人)
夏休みこどもシアター	H26 年 7 月 27 日	464 人 (343 人)

冬休みこどもシアター	H26年12月21日	327人 (449人)
第14回全国女性俳句大会 in 北九州	H27年2月28日 ～3月1日	1,513人 (1,578人)
第23回北九州将棋フェスティバル	H27年3月21～22日	710人 (748人)

貸館利用者の誘致・営業強化

5 営業体制の強化

(1) 既存利用者の利用定着化及び過去の利用者の利用復活

過去の展示場の顧客データを分析、利用頻度が減少等している顧客に対し、定期訪問による施設利用の働きかけや集客支援などの提案営業を実施した。

(2) 新規利用者の開拓

16件の新規展示会やイベント等を開催した。今後は新規利用者の定着化に向けたフォローを行うほか、コンサート、ゲーム大会、スポーツ会場、試験会場など新規分野を中心に積極的な営業を展開する。また、イベント主催者とテレビ事業部との連携体制を構築し、会場利用に向けた情報交換を行っていく。

(3) 貸し会議室の営業実施

近隣の貸し会議室との競争が激しくなっている北九州国際会議場の貸し会議室について積極的な営業を行い、長期間の利用者を誘致することができた。

◆26年度 新規及び利用が復活した展示会・見本市等の誘致実績

催事名	会期
住まいの大リフォーム博	H26年4月12日～13日
人間国宝 北村武資展	H26年4月24日～26日
DIS Power Day 2014 in 北九州	H26年5月15日
小倉北区エリア夏向け商材展示商談会	H26年5月21日
御節食材展示商談会	H26年6月25日
ファンタシースター感謝祭2014	H26年6月28日
マッサージチェアアウトレット決算セール	H26年8月2日～4日
平成26年度介護支援専門員専門I・更新前期研修	H26年8月12日
中小企業経営者・人材採用担当者向けセミナー	H26年9月4日
TAIYOファニチャーメッセ in KOKURA 2014	H26年9月20日～23日
住まいの大リフォーム博	H26年9月20日～23日
年末商材展示商談会	H26年10月16日
九州・山口 食の商談会 in 北九州	H26年10月27日
ひびしんビジネスフェア2014	H26年11月19日
インテリアフェア in 北九州	H26年12月6日～7日

第3回麻生公務員専門学校学園祭 冬華祭	H26年12月18日～19日
J L A C 2015	H27年1月18日
創業補助金説明会	H27年3月14日

6 閑散期対策等のイベントコーディネート

(1) 閑散期対策にぎわいイベント

夏季・冬季ににぎわいイベントを実施した。特に夏季に実施した「からだのひみつ大冒険 2014」は、当協会では初めて1ヶ月というロングラン開催に踏み切ったイベントであったが、12万人を超す入場者があり大成功を収めた。

(2) ビジネスイベントのコーディネート

デジタルものづくりクリエイターの祭典「北九州モノカフェ 2014」（11月）や6次産業化をテーマにした商談販売型展示会の「九州の食EXPO」（3月）は「北九州EXPOフリマ」と同時開催することで集客の相乗効果を生み出すことができた。また「九州の食EXPO」については、主催の同実行委員会に企画から協力する形で参画し、コーディネートを行うことで、誘致開催することができた。

◆営業 閑散期対策・ビジネスイベント等（H26年度）

名 称	日 程	入場者数
ブラレール博 in K I T A K Y U S Y U	7/18～22	43,503名
からだのひみつ大冒険 2014	8/1～31	121,257名
北九州モノカフェ 2014	11/15～16	5,000名
第2回北九州EXPOフリマ	11/16	5,340名
お正月だよ！ ウルトラマン全員集合！！ in 北九州	1/2～12	20,332名
恐竜ワールド in 北九州	1/10～12	28,016名
九州の食EXPO	3/20～21	11,100名
第3回北九州EXPOフリマ	3/21	10,000名
合 計		244,548名

広報・宣伝、地域連携

7 広報、宣伝

インターネットやリーフレットなど、様々な広報媒体を組み合わせるメディアミックスの手法を活用し、協会施設やイベントのPRを行い、施設利用者および来場者の掘り起こしに取り組んだ。また、ホームページについては見やすく迅速な情報発信ができるようリニューアルに向け準備を行ったほか、JR小倉駅構内に設置している催事案内板を見やすくリニューアルした。

8 地域連携

小倉駅新幹線口エリアの地域振興団体と共同で、異業種交流会や地域清掃イベント等を行うな

ど、地域の一体感形成に向けた活動やにぎわいづくりにも取り組んだ。

さらにJR主要駅に近接しているという施設の特徴を生かすため、JR九州との連携による、効果的な主催事業等のPRを行った。

管理・運営

9 お客様満足度の向上

(1) サービスの向上

来場者の導線をわかり易くするため、専門家の視点を取り入れたサイン計画づくりに着手したほか、公衆無線LANの利用者の声を参考にした不都合箇所の改善、現場でのツール作成の支援や消耗品の提供等、お客様の安心と信頼を得る取り組みを行った。

(2) 職員の資質・能力の向上

専門講師を招いた接客マナーなどの職場内研修、「国際会議場施設協議会」や「全国展示場連絡協議会」の担当者レベルの実務セミナーへの参加等を行った。

実務面でも日頃の現場での経験を積むことで職員の危機管理に対する意識とスキルをさらに高めることができた。

10 利用料金の見直し

施設の利用用途の拡大、稼働率の向上を図るため、他都市の施設の料金体系や減免措置、割引制度も参考にしながら、料金体系の見直しについて、引き続き北九州市と協議を進めてきた。

その中で、スポーツ利用及び名古屋市の施設との相互利用割引については具体的に特別料金制度を新設した。

11 管理業務の効率化

消費電力の削減による電力使用料金の低減や、メーカー保証期間を勘案した上で点検回数を改めるなど委託費全般について節減に努めた。

12 施設の改修等

お客様の利便性、安全性の向上等を図るため、施設設備の改修更新等を行った。

* 展示場本館：雨漏れ防止と消防設備の改修等工事、

耐震診断結果に基づく改修工事時期等の検討

* 展示場新館：照明・美術バトンのロープ、ケーブル、巻上げ機改修等工事

* 国際会議場：非常放送設備更新、テーブルおよび椅子等備品類更新等

13 施設の稼働率等

◆西日本総合展示場本館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
26年度	70	277	78.7	40
25年度	67	240	65.8	32
24年度	82	251	68.8	27

◆西日本総合展示場新館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
26年度	159	281	81.7	46
25年度	170	284	78.2	50
24年度	162	282	77.3	45

◆北九州国際会議場の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
26年度	577	321	91.5	7
25年度	513	317	88.3	7
24年度	588	320	88.9	7

14 指定管理

指定管理期間（26年度から30年度）の初年度であった26年度は、指定管理計画に掲げた目標（来場者数（展示場・会議場）75万人、コンベンション誘致件数185件など）を概ね達成（来場者数93万人、コンベンション誘致件数250件など）した。

Ⅲ 平成 26 年度決算

1 貸借対照表（総括表）

平成 27 年 3 月 31 日現在（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	210,161,748	244,911,313	▲ 34,749,565
受取手形	0	0	0
未収金	56,122,184	32,811,984	23,310,200
繰延税金資産（短期）	2,298,000	2,444,000	▲ 146,000
立替金	2,000	0	2,000
仮払金	5,380,397	11,652,657	▲ 6,272,260
流動資産合計	273,964,329	291,819,954	▲ 17,855,625
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	427,995,104	456,099,934	▲ 28,104,830
建物付属設備	4	4	0
構築物	431,895	563,901	▲ 132,006
機械及び装置	42,227,650	48,981,068	▲ 6,753,418
基本財産引当資産	860,781,234	860,621,218	160,016
減価償却引当資産	1,143,521,492	1,116,876,441	26,645,051
基本財産合計	2,474,957,379	2,483,142,566	▲ 8,185,187
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	155,004,461	150,643,549	4,360,912
減価償却引当資産	32,212,349	32,589,087	▲ 376,738
目的事業引当資産	625,067,525	625,058,525	9,000
事業開催引当資産	7,650,000	7,650,000	0
施設耐震診断費用準備資金積立資産	0	10,416,000	▲ 10,416,000
施設耐震等修繕費用準備資金積立資産	75,000,000	75,000,000	0
付帯施設設置費用準備資金積立資産	13,000,000	13,000,000	0
施設利用促進設備費用準備資金積立資産	27,000,000	27,000,000	0
主催事業強化費用準備資金積立資産	10,000,000	0	10,000,000
企画展開催費用準備資金積立資産	1,830,000	0	1,830,000
誘致事業強化費用準備資金積立資産	6,100,000	0	6,100,000
施設サイン改善費用準備資金積立資産	32,400,000	0	32,400,000
駐車場建設費用準備資金積立資産	15,000,000	0	15,000,000
特定資産合計	1,000,264,335	941,357,161	58,907,174

(3) その他固定資産			
建物	2,989,351	3,099,916	▲ 110,565
構築物	2,405,165	2,619,869	▲ 214,704
車両運搬具	3,654,838	3,318,867	335,971
什器備品	731,171	366,221	364,950
ソフトウェア	234,000	0	234,000
繰延税金資産（長期）	370,000	264,000	106,000
その他目的有価証券	45,000	366,400	▲ 321,400
その他固定資産合計	10,429,525	10,035,273	394,252
固定資産合計	3,485,651,239	3,434,535,000	51,116,239
資産合計	3,759,615,568	3,726,354,954	33,260,614
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	100,146,992	117,254,378	▲ 17,107,386
前受金	23,026,443	19,147,627	3,878,816
預り金	11,736,495	10,034,470	1,702,025
仮受金	192,500	2,374,093	▲ 2,181,593
未払法人税等	22,149,600	23,661,300	▲ 1,511,700
賞与引当金	10,719,849	10,945,185	▲ 225,336
流動負債合計	167,971,879	183,417,053	▲ 15,445,174
2. 固定負債			
退職給付引当金	155,004,461	150,643,549	4,360,912
固定負債合計	155,004,461	150,643,549	4,360,912
負債合計	322,976,340	334,060,602	▲ 11,084,262
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	856,000,000	856,000,000	0
展示場設備受贈益	470,654,653	505,644,907	▲ 34,990,254
基本財産運用益	4,781,234	4,621,218	160,016
指定正味財産合計	1,331,435,887	1,366,266,125	▲ 34,830,238
（うち基本財産への充当額）	(1,331,435,887)	(1,366,266,125)	(▲ 34,830,238)
（うち特定資産への充当額）	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	2,105,203,341	2,026,028,227	79,175,114
（うち基本財産への充当額）	(1,143,521,492)	(1,116,876,441)	(26,645,051)
（うち特定資産への充当額）	(845,259,874)	(790,713,612)	(54,546,262)
正味財産合計	3,436,639,228	3,392,294,352	44,344,876
負債及び正味財産合計	3,759,615,568	3,726,354,954	33,260,614

2 正味財産増減計算書（総括表）

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日（単位：円）

	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	15,017,272	17,216,459	▲ 2,199,187
展示場設備受贈益	34,990,254	37,765,067	▲ 2,774,813
特定資産運用益	3,728,500	3,169,000	559,500
受取会費	4,968,000	4,819,500	148,500
事業収益	568,087,769	586,205,002	▲ 18,117,233
受取補助金等	317,348,573	327,321,786	▲ 9,973,213
受取負担金	61,318,718	46,765,963	14,552,755
雑収益	18,011,520	18,377,387	▲ 365,867
経常収益計	1,023,470,606	1,041,640,164	▲ 18,169,558
(2) 経常費用			
事業費	910,466,360	961,917,597	▲ 51,451,237
管理費	11,844,571	12,438,864	▲ 594,293
経常費用計	922,310,931	974,356,461	▲ 52,045,530
当期経常増減額	101,159,675	67,283,703	33,875,972
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
車両運搬具売却益	205,040	0	205,040
その他経常外収益	0	0	0
経常外収益計	205,040	0	205,040
(2) 経常外費用			
車両運搬具除去損	1	0	1
その他経常外費用	0	0	0
経常外費用計	1	0	1
当期経常外増減額	205,039	0	205,039
他会計振替額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	22,149,600	23,661,300	▲ 1,511,700
法人税等調整額	40,000	▲ 248,000	288,000
当期一般正味財産増減額	79,175,114	43,870,403	35,304,711
一般正味財産期首残高	2,026,028,227	1,982,157,824	43,870,403
一般正味財産期末残高	2,105,203,341	2,026,028,227	79,175,114

II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	6,774,338	8,600,885	▲ 1,826,547
一般正味財産への振替額	41,604,576	45,999,630	▲ 4,395,054
当期指定正味財産増減額	▲ 34,830,238	▲ 37,398,745	2,568,507
指定正味財産期首残高	1,366,266,125	1,403,664,870	▲ 37,398,745
指定正味財産期末残高	1,331,435,887	1,366,266,125	▲ 34,830,238
III 正味財産期末残高	3,436,639,228	3,392,294,352	44,344,876

IV 平成 27 年度事業計画

1 総論

当協会を取り巻く中長期的な経営環境は厳しい状況にある。数年後には、周辺都市に、展示場やコンベンション施設の新・増設が予定されており、誘致競争が、よりいっそう激化するものと思われる。

したがって、引き続き、誘致・営業活動等を強化し、収入増や施設稼働率の向上を目指すとともに、経営の効率化を一層進め、これまで以上に自主自立の経営を確立していかなければならない。

【協会の活動】

当協会の役割は、西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口 国際コンベンションゾーン＝を一体的に運営し、積極的にMICEを推進することにより、産業振興・国際化の推進・にぎわいづくりで北九州市の新成長戦略などの政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献していくことである。この役割を果たすため、次の基本理念に基づき、事業を推進していく。

ア MICE開催の質を高め、産業振興・国際化を推進

- ・公益財団法人としての組織力・信用力の活用
- ・MICE研究の深化による専門性とMICE開催誘致の競争力向上
- ・環境変化に対応した自主事業のリニューアル
- ・地域に必要な高品質なコンテンツの提供と情報発信力向上

に取り組み、産業振興・国際化を推進し、地域の発展に貢献する

イ MICE開催の多様性を高め、にぎわい・活力づくりを展開

- ・北九州地域におけるMICE開催によるビジターズインダストリー（集客産業）の積極的な推進
- ・自主事業のイベント分野への新規参入、イベント営業強化
- ・有効な広報宣伝の実施
- ・他団体・他施設との連携によるエリアマネジメント

に取り組み、市内外からの集客力を向上し、地域への経済波及効果を増進する

ウ 施設の付加価値を高め、利用者ニーズに合致した利用環境・サービスを提供

- ・小倉駅新幹線口コンベンション施設と西日本総合展示場3施設一体運用
- ・利用者視点からのきめ細かなサービスの提供と向上
- ・ユニバーサルデザイン等による施設・設備機能の改善
- ・ハード・ソフト両面でおもてなしの心の反映

に取り組み、多様な利用者ニーズに合致した施設づくりを推進し、目的達成の基盤を整える

【27年度の取組概要】

ア 協会主催事業の強化

北九州市新成長戦略や国・県の産業政策の動向を踏まえながら、産業貿易の振興やにぎわいの創出、社会課題への対応に貢献する協会主催事業を開発・推進する。

(ア) 産業貿易振興型の主催事業の開発・推進

エコテクノ、インポートフェアなどの既存事業について、企画内容の充実、出展企業の増加を図るなど、事業の質を高める取組みを進める。

また、新たな産業やビジネスモデルの創造を支援していくため、例えば、ソーシャルビジネスや6次産業分野など、小規模なものや、採算性に乏しくてもテーマ性の高い展示会の開発を進める。

(イ) にぎわい創出型的主催事業の開発・推進

夏休み・冬休みを中心に、市外・県外からの集客も見込める、ファミリー・イベントの開催を行うとともに、北九州スタジアムと連携したスポーツ大会の検討などに着手する。

イ 韓国プサンBEXCO展示場とのMOUの締結

アジアに開かれた展示場の国際展開を進めるために、韓国プサンにあるBEXCO展示場とMOUを締結する。ENTECHとエコテクノの相互出展協力や新しい展示会の開発、将来的な人材交流に結びつける。

ウ コンベンション誘致の強化

国際・全国規模の大会・展示会の誘致や、スポーツ大会や入学式等での展示場利用の拡大などに積極的に取り組み、西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーンの更なる振興と賑わいづくりに貢献する。また、市のMICE開催助成金の戦略的な運用のほか、地域の文化・観光関連団体・施設との連携、他都市と連携した広域的な誘致戦略も推進する。

エ 積極的な営業活動の実施

施設稼働率、利用者数等の向上に向け、既存の利用者の定着化、潜在的な顧客の掘り起こしを進めるため積極的な営業を推進する。併せて、施設利用者への広報支援等を充実させるなど、さらなるサービスの向上に努める。また、特に、閑散期における利用者増・収入増を目的に、親子を対象とした賑わいイベントなどの企画・開催に積極的に取り組む。

オ 小倉駅新幹線口地区魅力アップイベントの誘致、開催

同地区の企業・団体などと連携して、当該地区の魅力アップと賑わいづくりにつながるイベントや事業などを開催することを検討していく。

「あるあるCity」、「あさの汐風公園」、「北九州スタジアム」など地域の資源を活用した事業を展開するため、イベントの誘致や共同開催に向けた取り組みを行う。

カ お客様満足度の向上

質の高い貸館サービスの提供や快適な利用環境を確保するため、フロア案内の充実や手続き業務の効率化、簡素化を図ること等を検討する。また、人材育成に努め接客力の充実を図り、施設利用者の利便性・満足度の向上に努める。

キ 西日本総合展示場などの施設の改修等

建築後38年を経過する本館について、劣化等に対応した維持補修を着実に進めるとともに、耐震診断の調査結果にもとづく施設改修の具体的な準備を進める。

【指定管理計画の目標実現に向けて】

平成27年度は指定管理期間の2年目を迎える。指定管理計画に掲げる目標（平成27年度：来

場者数（展示場・会議場）75 万人、コンベンション誘致件数 185 件など）を着実に達成するため、計画的・組織的な取り組みを進める。

2 各論

見本市・展示会事業

(1) 産業・貿易振興型の既存事業の充実

平成 27 年度は、「エコテクノ 2015 地球環境・エネルギー先端技術展」など、11 事業を開催し、地域の産業・貿易の振興に努める。

《平成 27 年度開催の事業（新規事業を含む）》

業 名	開催期日	入場目標	出展目標
西日本インポートフェア&食メッセ 2015	5 月 2 日 ～6 日	50,000 人	250 社
西日本製造技術イノベーション 2015	6 月 17 日 ～19 日	20,000 人	60 社・団体
第 41 回ふくおか産業技術振興展			40 社・団体
第 37 回西日本陶磁器フェスタ	9 月 19 日 ～23 日	50,000 人	200 社
エコテクノ 2015 (地球環境ソリューション展)	10 月 7 日 ～9 日	30,000 人	160 社・団体
エコテクノ 2015 (エネルギー先端技術展)			100 社・団体
エコ・ベンチャー・メッセ 2015			40 社・団体
中小企業テクノフェア in 九州 2015			50 社・機関
P. P. C. 2015 第 17 回西日本国際福祉機器展	10 月 29 日 ～31 日	30,000 人	130 社・団体
S A F E T E C 2015【新規】 第 1 回西日本防災、防犯・危機管理展	11 月 19 日 ～21 日	20,000 人	100 社・団体
合 計	11 事業	200,000 人	1,130 社・他

《企画内容の充実》

- 『西日本インポートフェア&食メッセ』で、30 回記念フェアを開催
→会場は「インポートエリア」「企画エリア」「食エリア」「イベントエリア」で構成、前回好評であったアフリカ、イタリアを中心にヨーロッパ地域の出展者を増加。
- 『西日本陶磁器フェスタ』で「日本陶芸展 九州展」を同時開催
→全国で最古参の陶磁器展示会として、陶磁器の魅力、文化、芸術を展示・紹介するほか、恒例の「ロールケーキフェスタ」、25 年度に開催し好評を得た「日本陶芸展 九州展」を同時開催。

■『エコテクノ 2015 地球環境・エネルギー先端技術展』の開催

→「エコテクノ」と「再生可能エネルギー先端技術展」について、27年度は一体化し、国内最大規模の地方環境展として開催。

《国際ビジネスの推進》

■海外の展示場との連携の強化

→海外の展示場との連携を強化し、各自主催展示会の相互出展、企画開発、将来的な人材交流などに結びつける。

(2) インキュベーション型の事業の開発・推進

新たな産業・ビジネスモデルの創造を支援するため、小規模でもテーマ性の高い地域独自の展示会（ソーシャルビジネス、6次産業分野など）を開催する。また、医歯工連携など、様々なテーマのフェアインフェア型事業を行い、新規展示会の開催ニーズなどを探索していく。

《新規事業の展望》

■『SAFE TEC 2015、第1回西日本防災・防犯危機管理展』の開催

→平成27年秋に、日刊工業新聞社と共同主催で開催する。最新の防災、減災、防犯及び危機管理に関する製品・技術・サービスを一堂に展示紹介。北九州市と共催で、一般市民の防災意識を啓発するコーナー、セミナーなども開催。

■『先端農業・植物工場フェア&セミナー2015』を企画展として開催

→エコテクノ2015の地球環境ソリューション展の企画展として、全国の関係団体の協力を仰ぎ、開催。将来的に独立した展示会としての開催を目指し研究を進める。

■『ロボット総合産業フェア（仮称）』を企画展として開催

→西日本製造技術イノベーション2015にて企画コーナーを設ける。

(3) にぎわい創出型事業の開発・推進

夏休み・冬休みを中心に、市外・県外からの集客も見込める、メディア等とタイアップしたファミリー・イベントを開催。また、北九州スタジアムと連携したスポーツ大会の検討などに着手。

会議・大会等

(1) 学会・大会のキーパーソン等への積極的な誘致営業

地元のキーパーソンとの信頼関係の維持に努めるとともに、地域特性や強みを活かせる分野を中心に、国際会議や大型会議のほか、同業者組合系大会やスポーツ大会等の誘致を推進する。

(2) 首都圏 北九州MICE倶楽部の結成及び首都圏交流会の開催

北九州市及び当協会に対して好意的なキーパーソンを対象に「北九州MICE倶楽部」を結成し、首都圏交流会を開催する。参加したキーパーソンを基に首都圏でのネットワークを拡大していく。

(3) 大学等との連携の推進

北九州市に立地する、九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学、九州歯科大学の4大学との連携や、アジア諸国の主要大学への訪問営業を強化、新たなネットワークを開拓し、より多くの国際会議及び学会の開催につなげる。

(4) 誘致支援事業の充実

効率的な営業体制強化を目的に海外主催者及び国内遠隔地向け「営業用ウェブツールの活用」、北九州市のPRを図るため「会議支援制度の拡大」、国際会議等の誘致のポイントとなる「ユニークベニューの活用」を図る。

また、「MICE開催助成金の効果的な活用」、「コンベンションボランティアの派遣」などきめ細かな誘致支援活動を行う。

貸館利用者の誘致・営業強化

(1) 既存利用者の定着化及び復活

過去の展示場の顧客データを分析するとともに、利用頻度が減少している顧客に対し、定期訪問による施設利用の働きかけや集客支援を提案する。

特にリピーター率が高い「自動車ディーラー」や「家電メーカー」、「ハウスメーカー」等に対し営業フォローに努めていく。

(2) 新規利用者の開拓

従来の展示会・見本市の誘致に加え、展示場・会議場での新たな利用形態を模索し、新規分野（コンサートやゲーム大会、握手会等のイベント、試験会場、合同展など）を中心に福岡都市圏や首都圏などでの積極的な営業活動を展開する。

(3) 「にぎわいイベント」への取り組み

主に夏休みや冬休みの対策として、ファミリー向けの「にぎわいイベント」の誘致に取り組む。平成26年度には、夏休みに開催した「からだのひみつ大冒険2014」で、初めての1ヵ月のロングラン開催を行い、市外・県外からも多数の親子連れが訪れ、来場者数は12万人を超えた。継続的に「にぎわいイベント」を開催していくために、会場利用等の条件を整備し、市民から期待される「にぎわいイベント」を構築していく。

(4) コンテンツ会社等とのネットワークの構築

「にぎわいイベント」を成功に導くためには、コンテンツ保有会社やイベント運営会社、テレビ局事業部との緊密な連携が必要であり、そのためにイベント業界とのネットワークを構築する。

さらに全国のコンベンション施設や産業振興団体等と利用情報の交換や共有を図ることで、共催・協力に向けた体制を構築していく。

(5) 国および市の事業への参画

国および市の事業に他団体と連携して参画し、展示会等の利用に結びつけなど、新たなアプローチを図る。

広報・宣伝、地域連携

(1) 広報・宣伝

協会ホームページに加え、情報誌「催事案内」の発行、JR小倉駅のマルチビジョンによるPR、新聞広告、JR主要駅やモノレール各駅へのポスター掲示などによる広報活動を実施する。

(2) 地域連携（小倉駅新幹線口連絡協議会などとの連携）

小倉駅新幹線口のにぎわいづくりと魅力アップに貢献していくため、「あるあるCity」「漫画ミュージアム」「ギラヴァンツ北九州」などと連携したイベントの開催の検討、「小倉まちづくりミーティング・泡盛ナイト」の開催などの小倉駅新幹線口地区振興連絡会（現在13の企業・団体で構成）の活動に積極的に取り組む。

管理・運営

(1) サービスの向上

施設のアクセス改善に向け、「フロアガイド」（新館、本館、会議場の位置関係や各会場までの導線を示した地図）と併せ、さらに案内を充実させるため「デジタル・サイネージ」やフロア・サイン等の導入を検討する。また、Webを活用した利用料金シミュレーションシステム、展示会・学会主催者などのチラシ・冊子作成を支援する「有料プリントサービス」など、ニーズを踏まえた新たなサービスを検討する。

(2) 職員の資質・能力の向上

個人情報保護や情報公開などコンプライアンスの遵守に関する基本研修をはじめ外国人への対応やプレゼンテーション手法など専門研修を強化することにより、施設運営を取り巻く環境変化に適応した信頼性の高い人材育成と能力開発を図る。

(3) 施設・設備の改修等

展示場・会議場を、常に安全・快適に利用していただけるよう、老朽化している施設・設備・備品などの予防保守や改修・改善に適宜取り組む。

(4) 展示場本館の対応等

本館については耐震診断の調査結果に基づき、工事に向けた具体的な準備を進めるに当たり、顧客等への慎重な配慮を行いながら、工事時期を含め十分な調整を行っていく。また、北九州スタジアム建設工事に付帯する道路工事等により本館駐車場の運用方法がさらに厳しくなるが、引き続き状況に則した運用対策を検討・実施していく。

V 平成 27 年度予算

1 収支予算書(総括表)

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日 (単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業会計	法人会計	内部取引控除	合計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	6,384,000	2,015,000	5,769,000	0	14,168,000
展示場設備受贈益	25,979,000	8,201,000	0	0	34,180,000
特定資産運用益	2,809,000	0	0	0	2,809,000
受取会費	4,800,000	0	0	0	4,800,000
事業収益	316,526,000	271,741,000	0	0	588,267,000
受取補助金等	328,930,000	0	0	0	328,930,000
受取負担金	27,898,000	32,912,000	0	0	60,810,000
雑収益	5,704,000	7,666,000	178,000	0	13,548,000
経常収益計	719,030,000	322,535,000	5,947,000	0	1,047,512,000
(2) 経常費用					
事業費	763,861,000	231,075,000	0	0	994,936,000
管理費	0	0	15,459,000	0	15,459,000
経常費用計	763,861,000	231,075,000	15,459,000	0	1,010,395,000
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 44,831,000	91,460,000	▲ 9,512,000	0	37,117,000
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	▲ 44,831,000	91,460,000	▲ 9,512,000	0	37,117,000
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外費用増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	43,934,815	▲ 47,525,185	3,590,370	0	0
法人税、住民税及び事業税	0	20,000,000	0	0	20,000,000
当期一般正味財産増減額	▲ 896,185	23,934,815	▲ 5,921,630	0	17,117,000
一般正味財産期首残高	1,478,921,309	208,515,693	▲ 5,804,840	0	1,681,632,162

一般正味財産期末残高	1,478,025,124	232,450,508	▲11,726,470	0	1,698,749,162
Ⅱ 指定正味財産増減の部					
基本財産運用益	0	0	8,803,008	0	8,803,008
一般正味財産への振替額	25,979,000	8,201,000	8,723,000	0	42,903,000
当期指定正味財産増減額	▲25,979,000	▲8,201,000	80,008	0	▲34,099,992
指定正味財産期首残高	474,428,613	149,819,561	860,205,614	0	1,484,453,788
指定正味財産調整額	0	0	▲100,000,000	0	▲100,000,000
指定正味財産期末残高	448,449,613	141,618,561	760,285,622	0	1,350,353,796
Ⅲ 正味財産期末残高	1,926,474,737	374,069,069	748,559,152	0	3,049,102,958

VI 役員名簿等

1 役員名簿

平成 27 年 7 月 1 日現在

役職名	氏名	備考
理事長	利島康司	北九州商工会議所 会頭
専務理事	古賀敬三	常勤
理事	西田幸生	北九州市産業経済局長
〃	田中亮一郎	北九州市にぎわいづくり懇話会 副座長
〃	安部高子	北九州商工会議所女性会 副会長
〃	廣瀬香	(一社)九州経済連合会 社会資本部長
〃	村上英治	(一財)九州産業技術センター 常務理事
〃	関宣昭	NPO法人里山を考える会 代表
監事	松原英治	北九州市会計室長
〃	羽田野隆士	北九州商工会議所 専務理事

2 市との特命随意契約の状況（平成 26 年度実績）

市からの特命随意契約による委託の状況			左のうち外郭団体からの再委託の状況				
委託業務名	委託金額 (千円)	特命理由	再委託の 業務内容	委託金額 (千円)	契約相手	契約方法	特命随意契約の 場合その理由
ロボット産業マッチングフェア 北九州会場運営 業務	935	当該フェアは、同協会が主催し、西日本総合展示場で開催する「西日本製造技術イノベーション」と合同で行うことにより、集客を高める事ができるほか、運営全体を考慮して、内容面、経費面でより効果的な実施が可能であるため。	再委託なし				
合計	935		合計	0			